

別記第1号様式（第7関係）

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第3回 豊島区観光振興推進委員会
事務局（担当課）		文化観光課
開催日時		令和7年 3月 24日（月）14時～16時
開催場所		区役所本庁舎5階507・508会議室
議 題		1 開 会 2 豊島区基本構想・基本計画について 3 令和7年度文化観光課内事業の予算について 4 その他
公開の 可否	会 議	☐ 公開 ☒ 非公開 ☐ 一部非公開
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
出席者	委 員	羽生冬佳委員、井上一委員、高田昌子委員、東谷彰子委員 今西和貴委員、倉林真弓委員、蔵方康太郎委員 一乃瀬光太郎委員、堀内裕介委員、渡邊圭介委員 計11名
	事 務 局	文化観光課長、文化観光課職員5名 交通政策担当課長

審 議 経 過

(事務局) 本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。
ただいまから、第3回豊島区観光振興推進委員会を開催させていただきます。
それでは議事に入る前に会議の公開についてお諮りしたいと思います。
ここで議論の内容を多くの区民の皆さん知っていただくために、会議録を公開したいと思います。皆様いかがでしょうか。ありがとうございます。
それでは会議録の公開については個人が特定されないように配慮いたしますのでご安心ください。
またこの会議では、AIによる文字起こしツールを活用して議事録を作成しております。音声データを取得し、当該データは暗号化の上、外部のクラウドに即時転送されています。そのため、個人情報や区民の財産・生命、行政事務の執行等に重大な影響を及ぼす情報(区の重要情報資産)に関する発言はなさないようお願い申し上げます。
本日、一般社団法人豊島区観光協会の石川裕委員はご欠席でございます。
次にお手元の資料の確認をお願いいたします。
観光振興プランの冊子については、委員会終了後置いておいていただいて構いません。
それでは開会にあたり本委員会の委員長よりご挨拶をお願いいたします。羽生委員長よろしくをお願いいたします。
(羽生委員長) 皆様、改めましてこんにちは。年度末でお忙しい時期と思います。3月に入り大学が春休みになり様々出かけていると、本当に人出が多いと感じます。これはインバウンドに限らず、若い人たちが非常に多く、人の動きが活発化しているのを実感しています。現在、池袋をはじめとした豊島区内もたくさんの方が行き来しているのではないかと思います。そういった事情や最近の情報などもお持ちでしたらぜひご紹介いただければと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。
(事務局) はい、どうもありがとうございました。
それでは当委員会設置要綱第5条2項「委員長は会務を総理し、委員会の会議の進行を行う」とございますことから、進行を委員長にお願いしたいと思います。
委員長よろしくお願いいたします。
(羽生委員長) はい。それでは次第に沿って進めさせていただきます。次第にあります「2. 豊島区基本構想・基本計画について」を事務局よりご説明をお願いいたします。
(事務局) 資料1を説明
(羽生委員長) はい。ご説明ありがとうございました。ただいま、観光に関係するところに絞って基本構想・基本計画を説明いただきましたが、何かご質問や御意見はございますか。

それでは、次に進めたいと思います。次第の「3.令和 7 年度文化観光課内事業の予算について」を事務局よりご説明をお願いいたします。

（事務局）資料 2 を説明

（羽生委員長）はい、ありがとうございました。

ではご説明にありました内容で、特に課題に挙げていただいた事業について、ご意見・ご質問はありますでしょうか。

私からは、よろしいでしょうか。ずいぶん予算の増減があるという印象ですが、特にマンガ関係や北口路上美術館事業経費について、何か補足いただけることがありましたら、ご説明いただければと思います。

（事務局）予算の増減については、マンガグループが本日は不在にしておりますので、詳しくは申し上げられないのですが、文化デザイン課が 4 月から組織改正で文化事業課という部署になりそちらの事業と統合したことでの事業費の減となっています。

ご指摘いただきました池袋北口路上美術館事業経費では、維持管理に係る電気料金が増加していることによります。

（委員）補足をさせていただきます。令和 7 年度の予算は、約 1745 億円となり過去最大の予算規模になっています。投資的経費ということで、例えば学校の改築や、再開発事業が挙げられます。また、今までの事業の見直しを行いながら、さらにこういった事業にお金を振り分けていけるようにということで、1 年間かけて、事業の再チェックを行いました。

結果は、ほとんどの事業で実績に合ったものにすることや、もう少し工夫ができないかということで財源を生み出していることから、ほとんどの事業費が減っているという形になっています。ただ物価高騰等によって、若干予算が増えているというところはございますけれども、今申し上げたようなところで予算が減っているというのが正直なところですが、観光・産業関係については、これから何かこれをやりたいということがあった場合には、補正予算等を見ながら実行に移していくというような形で考えています。

（羽生委員長）ご説明ありがとうございました。予算は有限ですので、本当にこの金額をかけてやる価値があるのかというのは、常にチェックをしていく必要があると思います。先ほどの事務局の説明に **IKEBUS** のお話がありました。今日はご担当の都市計画課の方にもいらしていただいていますので、現状と今後の活用の余地等をご共有いただけますでしょうか。

（交通政策担当課長）ご紹介ありがとうございます。**IKEBUS** についてですが、豊島区が 10 台保有しており、令和元年から運行しています。当初から路線運行と貸切運行を行っており、現状は 8 台で対応しています。

活用の余地については、昨今バスのドライバーやタクシードライバーの不足、乗務時間等に関する法律改正、コロナ禍の公共交通の減少等があり、これ以上の活用は難しい状況にありますが、随時ドライバーを募集しながら運行をしているところです。また、休日の需

要はありますが、平日の活用には改善の余地があると感じています。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。課題に貸切による民間活用と記載もあるので、制度として貸切があるようですが、現状はどのような利用が多いのかご紹介いただけますか。

（交通政策担当課長）民間による借上げというところでは、巣鴨信用金庫様による地元の地蔵通りを巡るツアーや町会による区内のお花見ツアー等で活用していただいています。

令和5年度はこういった借上げが19台ありました。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。情報もいただきましたが、皆さんからご意見ご質問はいがででしょうか。お願いします。

（委員）観光のパンフレットについて伺いたいのですが、6年度で制作されたものというのは、手元にあるこちらになりますでしょうか？

（文化観光課長）お手元にあるのは、6年度に豊島観光協会が制作したもので、そこに豊島区の意見を反映させていただいて、一緒に作らせていただいています。

（委員）制作自体は観光協会がされていますか？

（事務局）そうですね。はい。

（委員）英語化はどのようなステップでされたかわかりますか。

（事務局）日本語版の方でデザイン進めて、デザインが固まった段階でデザイン会社の方で英訳して、英語版を制作しています。

（委員）わかりました。雑感ですが一般的な英語の表記ルールが使われておらず、日本人が書いたのかなという印象です。もし、英語版を制作するのであれば、ルールに従った英文の表記にしていた方が読みやすくなるのではないかと思います。

（文化観光課長）アドバイスありがとうございます。豊島区としてもパンフレットを今までたくさん作ってきました。観光協会や池袋インバウンド推進協力会などが主体となってパンフレットを作成している現状があり、いい面もありますが、できるだけ集約して制裁した方が良いのではないかと考えています。今年度は観光協会や池袋インバウンド推進協力会での制作の際に区の意見を反映させていただいている状況です。

（羽生委員長）ありがとうございます。このような紙媒体については、常に問題になるかと思っています。作り方もそうですし、紙での制作はお金がかかるものですが、どれだけの効果があるのか、そのときは手に取るけどすぐゴミになってしまうなど、問題点も含んでいます。今後も制作していく以上は、検証も必要ですし、様々な主体が制作するものと、調整をしていくことも必要なことだと思います。パンフレットを含む観光情報の発信というのは、「観光情報発信事業経費」で取り扱っていくものと理解をしておいて大丈夫ですか。

（文化観光課長）基本的にはそうなります。今まではインバウンド推進事業経費で制作していた媒体も、予算がカットされてしまっています。そのため、シティプロモーションにインバウンド関係は移っていくというふうに考えており、その分観光課は他の団体と協力

してインバウンド対策をしていこうという話になっています。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。多数の主体が協力し合うのは、やる側としては手間暇含めてハードなことだと思いますが、ぜひそういった取り組みを進めていただきたいと思います。

（委員）いつもありがとうございます。資料のナイトライフ推進事業で予算が減額されていますが、令和 5 年 6 年とやられていて、どういう意味合いがあるのか教えていただきたいと思います。

ナイトライフは外国人のインバウンドの方が行きたいと思っていますが、なかなかそのような場がないというのが、自治体で課題を持っているところも多いので、そのあたりの実態も教えていただければと思います。よろしくお願いします。

（文化観光課長）ナイトライフ観光推進は、非常に力を入れているところです。ただ、金額で見ていただくとわかる通り、多額の予算を投入してきたというのがありますが、ここまでかけなくてもやりたいことはできるのではと検討してきました。行政だけの力だけではなくて民間事業者と協力しながら、本当の意味でのナイトライフ観光ということで、クラシック音楽を聞いて、そのまま帰るのではなく、お酒を飲みながら楽しくクラシックを楽しんで、その後街に繰り出していただくというようなことを考えています。ナイトライフ観光推進事業にある Tokyo Music Evening Yube は、来年度から開始時間を 1 時間繰り上げて開催します。これは実証実験をした結果、7 時台に比べて、5 時台から 6 時台の帰りがけ時間帯に通勤客が通りがかりに、少しお酒を飲んで楽しんでいるということがわかりました。限られた予算内で工夫をして事業を実施していく予定でいます。

（事務局）課題にも入っていますが、そもそも池袋西口公園だけで良いのか、夜にクラシック音楽の公演だけでいいのかという、少し事業が硬直化してきているのがここ数年の状況です。ナイトライフ事業と言いつつ、この主催事業しかないという状況になっていますので、少し課題意識を持っています。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。例えば、R7 計画のところには全 17 回と書かれていて、月 1.5 回の公演ということになります。そうすると残りの 29 日は何もやってないわけで、今ご指摘のあった夜遊びに行くような場所というものを少し進めましょう、という発想のときに、この事業を中心としてやり続けることでいいのかということは、今後検討していく必要があると思います。池袋という街を抱えている豊島区で、ナイトライフを推進する、し続けるのか、し続ける場合のやり方など、皆様ご意見いただければなと思っています。

それからもう一つは、回数を増やした方が良いのではないかというご提案をいただいているように思います。「池袋にいらした来街者に、今だったらここ行くとこれをやっているよということを、毎日何らかの情報を出したい」、「月 1 回 2 回しかやってないものだと伝えるにくい」というご指摘があったように思います。その意味では課題のところに書かれているように回数が減りましたので、他のイベントや、今ご提案ご発言の中にもありましたけ

れども民間事業者とも協力しながら、回数を増やすような努力ということもあっても良いかと思っております。

（委員）ホテルでは、ナイトライフもご案内をさせていただいておりますが、やはり毎週ここでやっているというのものが需要だと思いました。やはり、プロの方たちの演奏は、聞いていて心地の良い音楽だと思いますが、プロではなくても東京音楽大学、立教大学に協力を依頼することもできると思います。私どものロビーでも、1ヶ月に1回、学生に場所を提供して、オーケストラや、アカペラを披露していただいていた、お金を払わなくても。いい音楽を披露していただけるので、こういった地域貢献も含めて行うことで、件数が増え、さらにその出演者の友人や家族が、池袋に集まり、来街者も増えると思います。

IKEBUS では、結婚式の2次会会場にバスを貸し切ったことがあると思います。

路線運輸が1時間に1本というところでは、使いたくてもなかなか使えないという現状があります。回数を増やしていただければ、もっとご案内できるのではないかと思います。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。IKEBUSの方はやはりドライバー不足というかなり深刻な問題もあると思いますが、運行回数・時間帯の工夫をしないと、なかなか増えないというのも、おっしゃる通りかと思います。もう一点、先ほどご説明の中でTeamとしまからのご提案についてご紹介いただいてもよろしいですか。

（事務局）Teamとしまの方は、様々なチームとして参加している事業者がおり、今回3月19日、20日には、「池袋絶品グルメ祭り」というイベントを行いました。そのイベントは池袋西口公園でステージを使って、SEPTENI RAPTURES というダンスのプロダンスチームの団体があり、こちらの事業者にステージを使ってもらいました。そこでは、ダンススクールの子供たちの発表と、プロダンサーによるダンスを披露しました。それこそ先ほどご意見のあった、保護者の方が200名ほどいらっしゃって、とても場が盛り上がっていました。そういった集客の仕方も逆にあるのだなというふうなことを、今回実験的に行いました。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。Tokyo Music Evening Yube は定期的に開催されるイベントとして定着したと思いますが、その他の多様な活用についての実施体制、実施可能性を次年度以降検討していただけると良いかと思いました。

（委員）全般的に言えることかもしれませんが、先日のTeamとしまの際や、これまでもよく民間の力を使って一緒に事業を推進していくとよく使われる言葉かと思います。民間企業としても、持ち出しでイベントを実施することはできますが、それでは持続が難しいという課題があります。例えばナイトライフ観光推進事業の予算というのは、おそらくこのYubeなどの事業を実施する予算として取っているものかと思います。もし民間の力を登用して何か実施するとなる場合には、そこに補助金や、先日のTeamとしまのイベントの際は場所代を無償にさせていただいたと思いますが、何かしらの持続可能にするためのメ

リットというのを見出していただけると、より有効なアイディアが出てきやすいかと思いました。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。重要なお指摘だと思います。お祭りというのはコミュニティの維持や、地域の中での活動ということで区民活動として維持していくことも必要になってくると思います。他方ではその集客のためのイベントをどうやって維持していくかということも考える必要があります。区として、民間の力をより発揮してもらうため、民間の方々が参加しやすいような仕組みを作っていくのかというのは、研究すべき課題かと思います。事務局から補足がありましたらお願いします。

（文化観光課長）ご指摘ありがとうございます。本当におっしゃる通りで、数年前から豊島区も稼げる自治体を目指すという言葉も出ていているので、今までは普通の公共団体だったらできないようなことも、同じようなルールや考え方ではできないというのを感じていました。民間の力を持続可能な形で私達の中に取り入れさせていただくためには、補助金や、稼げる仕組みを検討する必要があると強く感じています。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。こうしてもらえると稼げるのではというようなことがあって、それがこういったハードルがあるとか、こういったことでなかなか実現してないということがありましたら、この場ででもいいですし、別の機会に様々な機会ですらアイディア出しをしていただいて、実際に実行可能かどうか一緒に研究できればと思っています。

（委員）全体的な感想になりますが、トキワ荘協議会は町会や商店街で構成されていますが、共創というところで産官学とありますが、町会・商店街会はどのように入っていくのか、関わり方について少し悩みがあります。先ほどお話のあった、新しい枠組みにヒントになるかと思っています。

旅マエと旅ナカについて、個人的に旅ナカという時間を増やしていくということがポイントで、滞在時間を延ばしていくという記載もありましたので、そういったところに稼ぎどころが生まれるのではと思います。

また、Yube では演奏が終わったら終わりという話があったありますが、サブツアーのような、イベントの打ち上げと称したイベントを主催し、意図的にもう一歩何かを繋げていく組み立てであっても良いと思います。ダンスミュージック・クラブミュージックはもう既に渋谷とか新宿でなされているところかと思うので、個人的には Yube でクラシックをやっているのは非常に良いことだと思っています。ナイトライフでは、プロジェクションマッピング自体はすごく好きなのですが、IP を活用して来街者を増やすことを、自治体として行おうとしていく方向になるのであれば、これは厳しいと思っています。

今後、区の方針性がシティプロモーションへ観光・産業もうつっていくのであれば、シティプロモーションの広報という話も合わせて考えていくことも必要になるのではないかと思います。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。いくつかご指摘ありましたが、何かご回答

いただけることありますか？

（文化観光課長）1点目のYubeのクラシックというのは、野外劇場で無料でクラシック音楽を聞けるような場所というのは他にないという意味では、そこに特化した形になっていると感じています。せっかくそういうお客さんの層を集めたのであれば、その後のナイトライフに＋αのサブツアーをつけるのも有効だと思いますし、あとはクーポン券を配付し近くのホテル、飲食店街をうまく活かすことや、IKEBUS ツアーを組み合わせるなど、やり方はあるかなというふうに感じました。非常にいいご指摘ありがとうございます。

それから2点目のプロジェクションマッピングですが、私の個人的な感想からすると、お金がかかりすぎるのと、それだけで人集めるのは、厳しいかなって思っています。最後に、シティプロモーション課との連携というのはお互いにどちらの部分でもどちらが何を担うのかというのは手探りの状態です。その辺はこれからよく話し合い、どのような方法が効果的かを考えていく必要があると思っています。

（羽生委員長）ありがとうございます。一番目の大事な点について忘れていた点がありました。産官学の中の町会・商店街の位置づけについては何かございますか。

（文化観光課長）産官学＋地域団体という言い方をしているので、産業は企業、官は行政、学は大学等、地域団体は町会・商店街を含めた言い方をしています。

（羽生委員長）はい。ありがとうございます。言い方・単語の使い方の問題もあるかなと思います。産官学と言いやすい面もありますが、決して地域団体や区民の皆さんというのが入っていないわけではありません。他にはいかがでしょうか。

（委員）今日こちらに伺う際に南池袋公園の中を通ってきました。芝生の上で皆さん本当楽しそうで、別世界のような気分になりました。外国からの観光客も大勢いましたし、小さなお子さんと来ているご家族、学校帰りの学生が集まっていると、芝生もなかなかいい観光地のように思いましたし、観光に何か地域の和やかな面が見られることは、来街者にとっては特別であると感じました。

池袋周辺は観光客が多くよく目にしますが、そういう方々はスマホに頼っていて、いろいろな情報を得ているというのが本当によくわかります。情報発信の強化とありますが、強化しなくても人が集まった例ではないかと思ってしまいますが、より強化できると良いと思います。先ほどの基本構想の資料の人口推移を見ていくと、外国人が3万2000人で、留学が34%となっており、若い方が多いと思います。こういう方々の、本国への発信や仲間内での情報交換ということを前提に情報発信を行うという、切り口も良いのではないかと思います。

（羽生委員長）はい、ありがとうございます。

（委員）全体の感想になりますが、基本構想・基本計画を拝見しまして、大きな転換というのはなく、この豊島区観光振興プランを大筋では引き継いでいくような印象を受けました。目玉というか、ここだけは変えていきたいという点がありましたら、教えていただければ幸いです。

(文化観光課長) 外国人の方が増えていますので、インバウンドに対する対応は注力していきます。ただ一方でオーバーツーリズムを警戒するというのもありますので、今までは誰でも来てくださいという考えでしたが、そうではなくて、ターゲットを絞って発信することが課題です。

今後、情報発信についてのアドバイスがあればいただきたいと思っています。

(委員) 池袋エリアプラットフォームでもビッグデータを活用して、詳細な国籍、もしくはその国籍によっての趣向の違いもかなり明瞭になっていますので、その辺りを汲み取っていただいて、この国の人たちにはこういったイベントということを、打ち出していけると、非常に効果的かと思います。

(羽生委員長) はい、ありがとうございます。池袋にどういう人が来てほしいのか、豊島区は地域毎にカラーがありますので、どういう方々を主にターゲットにするのかということは、意識しながらの情報発信は今後必要になるかと思います。

(委員) ナイトライフについて、野外で年間通して実施するのは厳しいので、季節によってはやり方を変えた方が取り組みやすいのではないかと思います。区内で滅多に入れない場所、例えばお寺・神社でのクラシックコンサートを行い、少しでも話題性を作れるような企画も良いと思いました。

出演者を学生の方を中心に、しっかりと回数を出てもらえるような枠組みを作ることで回数が増えるのではないかと思います。

(羽生委員長) はい、ありがとうございます。運営の工夫は必要になるかと思うので、委託事業者からアイデアをいただきながら、進めていただければと思います。

(文化観光課長) いろいろなご意見いただきました通り、プロではなくても毎週何かイベントを行っていることが大事ですとか、一つ一つこういった形であれば実現できるか考えていきたいと思っています。

(羽生委員長) はい、ありがとうございます。その他ご意見はいかがでしょうか。

(委員) 私どものお客様の 80%は海外の方となっています。また、池袋インバウンド推進協会を作っている担当の方でも必ず聞かれることを入れています。「コンビニエンスストア、ドラッグストア、ラーメン」です。ラーメンは特によく聞かれます。池袋はラーメン激戦区と言われていますが、もっとお店があっても良いと思います。池袋に行けばいろいろなラーメンが食べられることがわかれば、外国人ももっと集まるのではないかと思います。集め方としては、豊島区でラーメン店を開くと補助金が出るとか、その集まりやすいまちにすると必然的にもっとラーメンが集まって、外国人からもここに行けば短時間で何種類も食べることができる、というようなアピールもできるまち作りができるのではないかと思います。

(委員) 補足ですが、2024 年 3 月～2025 年 3 月のインバウンドに向けた情報発信では、1 年間の見られた記事の中で一番 PV が取れているのが、桜の開花予想の記事で「Cherry Blossom forecast」でした。2 番目がおっしゃる通り、「22 Best Ramen in Tokyo」という

ことでラーメンの記事でした。3 番目が「日本の映画シリーズ」で Netflix の中で英語の字幕があるものの、50 ベストという記事でした。もしインバウンド向けに発信されるのであれば外国人の興味・関心のあるものや、皆さんが現場でそういった情報をお持ちの方々もたくさんいらっしゃると思うので、そういったところからも情報を取りながら、まとめていくと使い勝手が良くなるのではないかと思います。

（羽生委員長）はい、最後に情報提供いただきましたが、食の魅力というのは観光振興プランにも書いてありますので、ラーメンもそうですけれども、いろいろなものが食べられる街である、区であるっていうことは、発信していった方が良いと思います。

あと桜ですね、改めてソメイヨシノ発祥の町としてのブランド作りっていうのは、ぜひ継続をしていければと思っております。はい、ありがとうございました。ちょうどお時間になりましたので、最後に次第に移らせていただきます。「4.その他」について事務局より何かありますでしょうか。

（事務局）はい。来年度の推進委員会につきましては、運営の方法を検討している状況でございますので、また追ってご連絡をさせていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

（羽生委員長）はい、ありがとうございました。では次年度以降も続くということで皆様にはぜひ引き続きご協力をお願いしたいと思います。それでは、これにて本日閉会とさせていただきます。長時間にわたりご協議いただき誠にありがとうございました。

提出された資料等	【資料】 ・資料1 豊島区基本構想・基本計画（答申）（一部抜粋） ・資料2 令和7年度文化観光課内事業の予算について
----------	--